

# 麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 臨床検査技術学科

職階 教授

氏名 石崎直人

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

## 1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

微生物学総論では微生物を構成する細菌・真菌・ウイルスの基礎的なことを学び理解し、説明が出来るようにする。微生物学実習では細菌の操作法を習得し、培養ができるようにする。臨床微生物実習と病原微生物学実習では病原微生物を培養し、菌種の同定ができるようにする。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
微生物学総論	臨床検査技術学科	必修	2	93
微生物学実習	臨床検査技術学科	必修	2	89
臨床微生物学実習	臨床検査技術学科	必修	3	105
臨床微生物学Ⅰ	臨床検査技術学科	必修	2	101
臨床微生物学Ⅱ	臨床検査技術学科	必修	3	109
環境・病原微生物学	環境科学科	必修	3	64
病原微生物学実習	環境科学科	必修	3	73
基礎化学実験	臨床検査技術学科	必修	1	87
総合臨床検査学Ⅲ	臨床検査技術学科	選択	4	99
総合臨床検査学演習	臨床検査技術学科	選択	4	104
卒業論文	臨床検査技術学科	選択	2～4	8
科学者・研究者論	環境保健学専攻	必修	1	24

## 2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

我々は生きていく中で日々病原微生物の脅威にさらされている。メディアでは多剤耐性結核菌、新型コロナウイルス、サル痘ウイルスなどの病原体の名前が多く見かけられる。2023年2月にはギニアにおいて初めてマールブルグウイルス病の症例が報告された。また、麻疹などの名前もメディアを賑わせている。これらの文言を見た時に、なぜ問題となっているのか、どのように身を守ればよいのかななどを自ら考え、解決法を導くことが出来る人間になってもらいたい。新型コロナウイルスについての情報が流されるときに、付随してくる文言に「抗原定性法、mRNAワクチン、Real-Time PCR法」等が挙げられる。これらの文言が解らないときには積極的に調べ、自分の肥やしにしてもらいたい。

## 3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

- ・ 授業の最後に小テストを実施し、最低限重要な項目を必ず覚えてもらう。達成度から判断し、実施時間を変更する場合もある。
- ・ 配布資料にはなるべく写真などを多用する。
- ・ 授業は配布資料の穴を埋めながら進める。
- ・ 2回目以降の授業冒頭では前回の重要な箇所を端的に説明する。
- ・ 授業内容については動画を必ず撮り、Azamoodleにアップする。

### (1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

Azamoodleに一週間前に資料をのせ、事前に予習をしてもらう。

### (2) ICTの教育活用

有

パワーポイントのスライドショーを用いて穴埋め式で授業を実施し、授業内容は録画をしてAzamoodleに載せる。

## 4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

### (1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

絶えず微生物に関する情報に着目し、最新情報を授業に反映させる。

### (2) 学生の理解度の把握

A

授業の最後に実施している小テストの正解率を確認し、正解率の低い設問については詳しく解説し、次回の小テストにも出題する。

### (3) 学生の自学自習を促す工夫

A

Azamoodleに資料をより早く載せ、自学へとつなげたい。また、次の授業内容について触れ、予習しやすい環境を整える。

### (4) 学生とのコミュニケーション

A

対面およびメールで対応している。メールでの意思の疎通は難しい点があるが、一方的かつ威圧的にならないように注意している。

### (5) 双方向授業への工夫

B

実習では各班の結果を発表し、相違点などについて共有を図る。

### (6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

B

学生の苦手な分野を確認し、視覚的に頭に入るように写真や画像を今以上に入れる。  
試験結果の優れない下位25%の学生については、指導方法について検討中である。

## 5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

### (1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

例年動画に関する意見がなかったが、今年度も継続して授業の動画をAzamoodleに載せた。

### (2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

その結果、今年度から動画に関する意見が挙げられていた。「振り返りような授業動画はものすごく役に立っている」、「動画資料などがあって理解しやすかった」、「講義内容をdriveに残してくれたのが試験対策に役に立っていたのでとても良かったです。」、「授業動画を見て復習することができた」などの声があった。今後も継続していきたい。

### (3) (2)を踏まえた次年度の取組

授業の動画に関しては良い意見が寄せられていた。資料に関しても見やすいとの意見が多く確認されたので、引き続き向上させていきたい。

## 6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組  
授業の終了時に実施している小テストに加え、授業の最初に前回分の復習を実施する。

(2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組  
に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

まだ成果が確認されていない現状である。

## 7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

FD講演会やFD研修に参加し、授業に反映できるようにした。

## 8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

短期目標：国家試験の合格率を95%台にする。

長期目標：国家試験の合格率を100%にする。

## 9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

シラバス、Azamoodleを用いた小テスト、配付資料